



野尋禾の
ついのべ

その九
(2010/05)

まえがき

”野尋禾のついのべ その九 (2010/05)”です。
2010年5月に発表したついのべをまとめました。

生産量が激減してます。

詳しい事情は述べませんが、4月にあった某社のついのべコンテストで全滅したこと。
また、自分以外の応募者の応募作品も以外な結果になったこと。
そういったことから、方向性を見失ったことが、創作意欲に影響したのだと思います。

……

いろいろ考えましたが、結局、自分は自分だというところに落ち着きました。
コンテスト主催者の意図は受賞作品の傾向から、なんとなくわかりました。
が、そこに自分を合わせる必要はない。
あれはあれでしかない。
これはそれではない。
これはこれだ。

……

あなたの暇を潰す柔らかいハンマー、または曲がるペンチ、それとも……

本コンテンツに収録された作品はフィクションです。
実在する人物、団体名などは便宜上、用いたものです。
実在する人物、団体になんら影響の及ぶものではありません。
ご了承ください。

収録作品はすべて、twitter で発表されたものですが、修正を加えたものもあります。

本ファイルに収録された作品の著作権は、野尋禾／nohi ronogi／佐々木秀博に帰属します。

2010/08/01

HP : http://www.geocities.jp/nohiro_nogi/

mail : nohironogi@gmail.com

Twitter : @nohironogi

なう、そして、Q。(2010/05/01 - 2010/05/10)

#twnovel

[まだ電車なう]
[僕も絶賛寿司詰め中w]
[隣のオヤジくつつき杉。ケータイいじってる]
[マジ? あ]
[あ? ww]
[隣のおねーさんに見とれてしまいました]
[美人?]
[マジ美人!]
[こっちはおやじにガン見されてまーすw]
[むらむらなう!]
[あ、お尻に触った]
「「!？」」

2010/05/07 (Fri) 21:35:07

nohironogi の今日のお題は『チョコケーキ』『布地』『スキップ』です。

(*”診断メーカー”サイトによるランダムセレクトされたお題*)

2010/05/09 (Sun) 18:59:41

#twnovel

ケーキ屋さんの前、チョコケーキに誘惑された。
男のくせに、柔道部のくせに、俺はチョコケーキ大好き。
でも、財布の中のお金は、布地代。
男のくせに、柔道部のくせに、俺の趣味は洋裁。
ワンピースを仕立てたかったのに……でも、迷うのも楽しいな。
スキップしちゃう。
体重百キロだけど。

2010/05/09 (Sun) 19:30:55

#twnovel

寒暖の差が激しい今日このごろ。
先生の予測したとおりの未来です。
温度差による膨張と収縮を繰り返し、建物が崩壊する。

私はいい生徒ではありませんでしたが、その話だけは覚えています。
東京は砂の海に成り果てました。
先生、これから、どうなるんですか。
どうか、教えてください。

2010/05/10 (Mon) 01:12:04

#twnovel

月曜夜Q時
夜空にQ番目の月。
Q個の月が一度に揃うことはない。
それぞれQ個の相を見せて、地上を見下ろす。
それぞれに女王がましまして、無慈悲な要求を臣下につきつける。
けれど、そんな命令に彼等は歓喜して殉じてゆく。
僕には、その気持ちがわかる。
君のためなら死ねるから。

2010/05/10 (Mon) 22:50:26

基石の物語、そして、不死身メイド探偵・富士見まろん登場。(2010/05/11 - 2010/05/20)

#twnovel

あ、また、ドキドキしてる。
めまいのなかで、君をみつめている。
君だけが輝いて見える。
君以外の全世界は闇。
そして、闇は僕を包み込み……目ざめたとき、病室で点滴を受けていた。
医者は言った。
栄養失調による貧血だと。
大人はわかってくれない。
これは恋です。
変じゃありません。

2010/05/11 (Tue) 17:59:26

#twnovel

「ああもう！」
「先輩、しっかり！ いつも言ってたじゃないですか。がんばればなんでもできる
って」
「そんなの、はったりだ。前は崖、後ろは怪獣だぞ！ 何ができる？ それともな
にか、新人、お前が変身してやっつけるとでも？」
「わかりました！」
「え？」
「がんばりましょう！」

2010/05/11 (Tue) 20:39:08

#twnovel

また、はずれか。
まあいい。
不確かな噂、微かな伝承、破れた古文書……そんなものをたよりに、旅を続けて
きた。
不老不死の妙薬を求めて。
報われない旅だ。
生命の危険もある。

しかし、永遠の命のためだ。
このさき、どれだけ年月を費やしてもいい。
もう三百年も探し続けてきたのだし。

2010/05/11 (Tue) 23:12:30

#twnovel

iPadは、僕の人生を変えた。
以前の僕は、貧弱な坊やだった。
女の子たちには見向きもされず、男の子たちには馬鹿にされた。
自分を変えたかった。
そんなとき、iPadに出会った。
iPadは僕を厳しく鍛えあげた。
今、傭兵として戦い、生き残っているのは、iPadのおかげだ。

2010/05/12 (Wed) 21:47:31

#twnovel

またしても、子供の周辺での事件です。
今日、昼前、包丁を持った男が、都内の小学校に侵入し、死んだ動物の肉や、植物を切り刻み、火あぶりにしたり、熱湯や、煮えたぎる油に入れたうえ、全児童及び教員の口にいれようとしてました。
校長によれば、男は”給食のおじさん”と呼ばれ……

2010/05/12 (Wed) 23:17:51

#twnovel

歴史が大きく変わろうとしている。
孫が（といっても、もういい歳なのだが）よくそう言っていた。
そして、こう続けた。
変えるのは自分たちなのだ、と。
私にも、息子夫婦にも、その意味はわからなかった。
孫は、年寄りを置いて、どんどん先へ進む。
目で追うこともできない、光の道を。

2010/05/14 (Fri) 00:01:20

*毎月14日は”ついのべの日”。五月のお題は”碁石”。

#twnovel

#twnvday

I 県 R 市、碁石海岸。
リアス式海岸の断崖の下、碁石のような小石の浜が波に洗われている。
「つまり、碁石大になるまで、削られ続けたわけだ」
「……え、ちょっと待って。じゃあ、これみんな自然の石？ 古い碁石を供養してくれって、爺ちゃんに預かってきたのに」

2010/05/14 (Fri) 23:01:49

#twnovel

#twnvday

「先輩、大変です！」
「どうした、後輩？」
「この石、裏も白です。あ、こっちは黒だ」
「後輩よ、それはな……」
「はっ！ 重大なことに気がついてしまいましたよ！」
「一応、言ってみろ」
「はい。この石、磁石になってません」
「おまえ、素で言ってるみたいだな」

2010/05/14 (Fri) 23:35:40

#twnovel

前を走る乗用車の後尾がふらふらしている。
案の定、対向車と正面衝突。
二台がひとかたまりになって、二車線をふさぐ。
渋滞が発生。
身動きできない。
遠くから救急車のサイレンが聞こえてくる。
だんだん眠くなる。
まぶたが重い。
違う。
救急車じゃない。
あれは、サイレンの魔女の歌声。

2010/05/15 (Sat) 13:42:41

#twnovel

縛りあげられた私。
メイド服は破れ、血が滲んでいる。
ご主人様が耳元で囁く。

「まさに冥土の土産。教えてやろう。妻を殺したのは僕さ」
ブラの中の ICレコーダーにも聞こえたはず。
演技終了。
するりと縄ぬけ、男を突き飛ばす。
「ご覚悟！ 私は、不死身メイド探偵・富士見まるん！」

2010/05/16 (Sun) 11:40:34

#twnovel

瘦せた月と金星——見上げた夜空。
俺の記憶は、そこから始まるんだ。
見上げた視線を下ろしたとき、俺は、見知らぬ街にいた。
それまで、どこにいたのか、何をしていたのか、自分が何者なのか——なにひとつ
思い出せなかった。
おかしいだろ？
「……いえ、全然。私も、そうですから」

2010/05/16 (Sun) 22:34:40

#twnovel

富士見学舎——事故や災害の生存者を保護する慈善事業で知られている。
明治期の創立以来の伝統。
中には三代にわたって保護された生徒もいる。
大惨事から生還した両親の子、そして孫。
運はさらに強い。
「だから、お前は強いんだ。まるん」
「はい。理事長——じゃないや、お義父さま」

2010/05/17 (Mon) 00:26:11

#twnovel

MRI のデータによる 3D モデルが、ディスプレイの中で回転している。
「あなたの心臓です。一見、何の変哲もない。だが、こうして断面を見ると……内壁
に鞭毛モーターが植え付けられている」
「いつのまに……」
「これが強さの秘密です。まるんさん」
「心臓に毛が生えている、と？」

2010/05/17 (Mon) 00:49:52

「少し都心を離れると、栗の花の香りがするね」

「はい。おぼっちゃま」

「この季節が来ると、栗の木の多さには驚かされるね」

「はい。おぼっちゃま」

「ねえ、まるん。どうかした？」

「へ、変なことは考えてません！」

「顔、赤いよ」

不死身メイド探偵・富士見まるんは、耳年増だった。

2010/05/17 (Mon) 22:07:32

「ねえ、まるん」

「なんですか、おぼっちゃま？」

「どうすれば、まるんみたいに強くなれるの？」

「そんな、私、強くなんか……」

「えー、いつも僕を守ってくれるじゃない。特別な修業とかしたんでしょ？」

「いいえ、私はただ、九死に一生を得るような体験を十回以上しただけで……」

2010/05/17 (Mon) 22:49:53

*この前後の時期、”無断フォロー”という行為を問題にする人が話題になっていた。
。（普通は無断でいい）

ぼっちゃまと二人、屋敷に戻ると、執事長からご主人様の部屋へゆくよう命じられた。

ご主人様は窓の外を向き、終始、背中越しにお話しになった。

「まるん。私に無断で息子を連れ出したことは認めるな？」

「はい。申し訳ありません」

「……で、あれは、その、何がしたかったのだ？」

2010/05/19 (Wed) 18:32:43

彼は皇帝と呼ばれていた。

孤高を愛し、群れるのを嫌う。

そのくせ、人一倍の淋しがり屋であることは、誰にでもわかるのだった。

「部長、新作ポエム、読みました。感動しました！」

「なんだと！ 君に僕の詩情が理解できるものか！ 僕に無断で感動するな！」
「部長、目から水が……」

2010/05/19 (Wed) 19:08:34

#twnovel

深夜、無断で家を抜け出して、断崖へ。
この決断に自信はない。
家族や友達と断絶してしまうかもしれない。
でも、破断しかけたセカイと君を救うために、僕は戦う。
断然有利とはいえないけど、断固として、奴を倒さなきゃいけない。
油断大敵。
崖下から、妖怪・断腸の匂いが上ってくる。

2010/05/19 (Wed) 20:56:20

#twnovel

「なじょしても、イグのが？」
「んだ！」
「そったにやんたガ？」
「んだ。納豆さ砂糖かけるような家には、モハ、いられねでバ」
「ハア、オラ、わがらネ。何が悪りって？」
「おっ母、時代は変わったんだ！」
「こん馬鹿たれ……これ、握り飯、汽車のながでケ」
「汽車でねえ。新幹線だ」

2010/05/19 (Wed) 23:12:27

#twnovel

新番組”砂鬼ナレ—哭く手—”。
古人いわく——山川草木、森羅万象、この世のなか、ありとあらゆるものに魂が宿る。
だが、いつからか、人間だけがそれを忘れてしまった。
砂絵に魅せられた女と、砂に宿る鬼が出会うとき、君は何かを思い出す。
次週、”第一話・砂絵曼陀羅”。

2010/05/20 (Thu) 22:07:02

不死身メイド探偵・富士見まろんの日常、そして、フォロミアン・クロニクル。
(2010/05/21 - 2010/05/31)

#twnovel

「最近ウケてるアニメの条件は何だ？」
「女子高生のなにげない日常」
「四コマ」
「萌えキャラ」
「ひらがな四文字」
「小さい”っ”」
「……出尽くしたか。そこで、この作品だが、忌憚ない意見を出してほしい」
「これをアニメ化スか？」
「そう、戦国不精先生原作の”ものぐさっ！”だ」

2010/05/22 (Sat) 16:17:07

#twnovel

人類は機械を作った。
機械は人類を真似た。
機械は反乱を起こした。
人類は滅亡した。
機械は人類になろうとした。
機械は人類になった。
人類は機械を作った。
機械は人類を真似た。
機械は反乱を起こした。
機械は人類を真似た。
機械は人類になろうとした。
機械は人類になった。
人類は……

2010/05/22 (Sat) 23:07:41

#twnovel

たとえば、頭部に気体状のものがまとわりついている、とします。
分析不能である、とします。
気になってしかたないけれど、そのうち忘れてしまう、とします。

そのとき、それは蒸発したように感じられますが、実は、脳内に浸透して、自己組織化し、この文字列に変換されているのです。

2010/05/23 (Sun) 01:35:27

#twnovel

傘が役にたたないような雨。
役にたたない傘——傘の骨の一本が折れて、それが破った穴が広がっている。
雨漏りするので、雨合羽のフードを被っている。
酷い格好。
惨めな俺。
濡らさないように慎重にポストに手紙を落とす。
親友に頼まれて代筆したラブレター。
宛名は、愛しいあのひと。

2010/05/23 (Sun) 22:55:48

#twnovel

切れ切れの細い青い文字——”寂しい”。
雨の日には、思い出す。
うまくいくわけがない。
そんなこと、わかりきっている。
とある小さな海岸ぞいの町、穏やかに晴れた夏の終わり——俺達は、大事なものを失った。
俺は逃げ出したのに、お前はまだ手紙をくれる。
涙の粒で綴ったような……

2010/05/23 (Sun) 23:27:03

#twnovel

初めて口づけをかわした雨の日曜日。
もう、前世紀のことなのですね。
今更ながら驚かされます。
きっと、君が隣にいることに慣れてしまっていたのですね。
感謝の言葉すら忘れていました。
手紙を書いたこともありませんでした。
これが、初めての恋文です。
有難う、そして、安らかに……

2010/05/24 (Mon) 00:01:13

庭掃除をしていたメイドの左胸に、光線が照射された。
光源は痩せた老人の万年筆。
「不死身といえど、心停止光線を受けては……え？」
メイドは竹箒を振って、万年筆を弾きとばし、澄まし顔で掃除を続けた。
「お掃除の邪魔です」
「そうか、心臓に毛が！」
まるんの目が、冷たく光った。

2010/05/25 (Tue) 20:39:42

「最近、よく物を壊すらしいな。まるんらしくない。疲れているのか？」
「いいえ、旦那様……」
と、俯いたまるんのヘッドドレスに丸い穴。
縁は少し焦げている。
「窓から離れて下さい！」
旦那様を強引に押し倒す。
「こ、これは？」
「狙撃です！すみません。標的は私です！」
「え？」

2010/05/25 (Tue) 23:39:53

記憶は不条理だ。
地下鉄の階段ですれ違った女。
その女の何が引き金だったのか、過去から浮かびあがる面影。
若い日の、その光の中で笑っている彼女。
急に怖くなる。
なぜ俺はこんな遠くまで来てしまったのか、と。
いや、と頭を振る。
記憶がすりかわっている。
あれは残酷な季節だった。

2010/05/26 (Wed) 22:19:08

*フォロミアン・クロニクル。

人として正しいと思うことをしなさい——母さんは、いつもそう言っていた。

そして、そのように生きた。
その難しさと辛さが、やっと、わかりかけてきた。
でも、母さん、僕はあなたのように生きられません。
あなたの息子であることを隠してきた僕には。
隠れフォロミアンの僕には……

2010/05/27 (Thu) 19:54:08

#twnovel

彼はテーブルごしの彼女を見られない。
喫茶店には有線のヒット曲が流れている。
彼のコーヒーはもう残っていない。
彼女のミルクティーは口をつけないまま、熱を失った。
彼は、煙草をくわえかけて、店内禁煙の常識を思い出し、立ち上がる。
「フォロミアンとはつきあうなって、ママが」

2010/05/27 (Thu) 20:42:32

#twnovel

小気味よい音を立てて、先生が黒板に書いたの文字は”人”。
「この漢字は、支え合っていますね。それは社会のあるべき姿で」
そこまで言ったとき、扉が開き、黒服の男達が乱入してきた。
「そこまでだ！ フォロミアン！」
「最後まで言わせて！」
先生の声が、廊下を遠ざかっていった。

2010/05/27 (Thu) 21:09:16

#twnovel

刑事は気さくな態度で語りかけた。
「あなた、別にあれを信じてるわけじゃないですよ？ ”フォロミ”と唱えれば成
仏するとかいうの」
「いや、成仏は違いますよ」
「でも、救われると教えられたんでしょう？」
「いや、ですから、あの」
「もっとよく教えてもらえますか。じっくりと」

2010/05/27 (Thu) 21:27:20

#twnovel

朝もやの中に、公園の木々が浮かんでいる。
ひとり、またひとり、年齢も服装も違う男女が現れる。
いつしか、大きな輪ができていく。
やがて、口々になにか呟き始めた。
呟きはしだいに揃い、ユニゾンになり、うねりだす——
ふおろう、みい。
そうご、ふおろう、みい。
ふおろう、みい……

2010/05/27 (Thu) 21:45:45

#twnovel

「私には理解できません。当局は何を恐れているのです？」
「口を慎みたまえ」
「すみません。しかし、彼らが社会の脅威になるとは思えません」
「最初は気がつかない」
「最初とは？」
「一匹の蝗が、いつのまにか大群となり、国を滅ぼす」
「彼らが、その蝗だと？」
「フォロミアン……」

2010/05/27 (Thu) 22:32:46

#twnovel

「フォローミー。フォローありがとう。それで？」
「それだけよ。なにか問題でも？ 今に全人類が相互フォローの絆で結ばれる日が」
「ちょっと、声大きいよ。みんな見てるよ。ほら」
隣のテーブルの紳士が立ち上がった。
「あ、すみません」
紳士は首を振り、呟いた。
「ふおろーミー」

2010/05/27 (Thu) 23:09:11

#twnovel

造られた夜に見る、月の大きさと、地球の小ささ。
感覚的に受け入れがたいものがある。
コロニー社会もそうだ。
見た目は地球上の都市と変わらない。
自然を模倣した公園もある。
むしろ、地球より快適だ。

住人たちも朗らかだ。
よそものの私にも気軽に挨拶してくれる。
「ふおろーみー！」

2010/05/27 (Thu) 23:35:31

#twnovel

そう、我々は、フォロミアンと呼ばれたものたちの末裔です。
国境、人種、性別、あらゆる境界を越えた彼らは、為政者にとっては潜在的脅威。
ひそかに狩られ、追いつめられ、歴史から抹消されたのです。
だが、志は地下で生きつづけ、スペースコロニーに流れ着いた。
この、約束の地へ。

2010/05/28 (Fri) 00:12:38

#twnovel

父の乾いた唇が動いた。
「歴史だ。見て、泣け」
「え？」
「昔の小説さ。まったく……約束の地か……」
「もう喋らないほうがいいよ」
「ああ。少し寝るよ」
痩せこけた父の背を支えて、寝室まで送っていった。

その日、地球政府議会は、我々のコロニーに対する経済封鎖の実行を議決した。

2010/05/28 (Fri) 01:08:11

#twnovel

人類は、三度フォロミアンを抹殺した。
一度目は電網から。
二度目は地球上から。
三度目は地球・月圏から。
その結果、人類は、深宇宙進出の機会を、いたずらに遠ざけることになった。
フォロミアンが退去したコロニーには、地球政府が求めた先進技術も情報も、何も残されていなかった。

2010/05/28 (Fri) 01:36:09

#twnovel

またしても遺跡。
なんてゲームだ。

最新宇宙船で未踏領域に踏み込むと、必ず足跡がある。
そこには、きまってプラントが残されていて、人類はそれを盗む。
そして、さらに遠くへ。
そこで、また遺跡……まったく、俺達を置いて、どこまで行っちゃったんだ。
フォロミアンとかいう奴らは。

2010/05/28 (Fri) 02:24:28

#twnovel

姉さん、目の前は崖です。
跳べるか、俺。
上空では、エウレカが苦戦してる。
アミダドライブを届けなきゃいけないんだ。
飛べるか、俺——翔べる！
「あーい、きゃーん、ふらーい！」
虚空に身を躍らせた。
ねだるな、勝ち取れ。
ボードでトラパーをとらえて……姉さん、これ、iPad？

2010/05/30 (Sun) 11:49:22

>書き直し 2010 年 06 月 08 日 14 時 53 分 21 秒

#twnovel

冷やし中華が運ばれてきた。
「ようよう、おふたりさん」
ウェイトレスが言った。
なぜか棒読みだ。
僕と彼女は、顔を見合わせる。
「おやすくないねえ」
ウェイトレスは赤面している。
僕は
「は、ええ、まあ」
てきとうに相槌。
彼女が気がついて、お品書きを指さした——
”冷やかし中華”

2010/05/31 (Mon) 22:16:55